----------(前回からの続き)----------

「♪I love you, babe…」。夕食後に始まった映画は、たまたま二人とも興味があったのか、会話も少なく真剣に見入っていた。売れない二人の兄弟ピアニストとオーディションで採用した一人の女性シンガー。そして、恋。

横目で見ると真剣なまなざしのアキコがいた。やっぱり、女性だとこの手のストーリーには興味あるのかな…。タイチは出張の疲れからか、いつの間にか佳境に入る前についウトウトして眠りに入っていった。

*

『トォウメイトォ…』何やら英語の会話にタイチは目を醒ました。ネイティブのようなきれいな発音だ。しゃべる英語は苦手でもヒアリングは何とか及第点だったタイチは、しばらく目を閉じて英語の会話を楽しんでいた。

アキコ「ほら起きてよ、タイチくん。好きだったでしょ？トマトジュース」

知らない間にそっと掛けられていたブランケットを寝ぼけ眼でどかすと、目の前に真っ赤なトマトジュースがあった。

タイチ「あぁ、寝ちゃったな…」
アキコ「実は、私もね。さっき起きたところ。お互い仕事で疲れてたから…」

好きなトマトジュースも寝覚めに飲むとやたらと塩っ気を感じる。気付け薬みたいだ。しばらくまどろんでいたかったタイチだったが、妙な視線を感じるので、そっと目をやるとアキコが質問したくて、しょうがない表情でこちらを眺めていた。

タイチ「な、なんだよ？」
アキコ「目が醒めたらでいいんだけど、こういった場合ってどうなるの？」

アキコには似合わない低姿勢な物腰で差し出されたメモ。タイチが視線を落とすと、何やら数式と図形が書いてある。サイン、コサイン…。三角関数のようだ。しかし、本当にアキって好奇心に火がつくと止まらない。

タイチ「あぁ、それね。ちょっと待って」

こうなったら付き合うしかないと悟ったタイチはノートパソコンを取り出して画面を開いた。今は消灯時間中で、機内天井の小さなダウンライトの光が手元をほんのり照らしてくれている。ノートパソコンのバックライトの方がやけにまぶしい。

タイチが準備できるのを待って、アキコが口を開いた。

アキコ「あのさ、電卓でも三角関数って、記号が数字の後に来るよね」
タイチ「そう。ルートと同じだね」
アキコ「それでね。まず、これなんだけど…」

アキコが指差した先には、サインとコサインの数式が書かれていた。

sin(45°) * cos(30°)

アキコ「これって、考えたんだけどさ…。こうならない？」

次のページにタイチが寝ている間に書き記した逆ポーランドの数式があった。

45 sin 30 cos *

タイチ「うん、あってるよ。ただ…」
アキコ「何か違う？」
タイチ「うーん。自作の電卓だと…。あ、面倒だから、これから『rpn』っていうけど、rpnでは一部の例外を除いて、全ての関数とか演算記号は一文字にしたんだよね。キータッチ数を少なくするためにね」
アキコ「すると、どうなるの？」
タイチ「sinは『s』。すると…」
アキコ「cosは『c』で、tanは『t』」
タイチ「そのとおり」
アキコ「じゃあ、こうね」

アキコは要領を得たかのように、逆ポーランド式をすらすらっとメモに書き込んだ。ほっそりした指で書かれたペン先からは女性らしい、でもしっかりした軌跡が残されていた。

45 s 30 c *

タイチ「いいね。でも、違ってるんだ。rpnでの角度は…」
アキコ「あっ！ラジアンね」
タイチ「そう」

打てば響く感じの受け答えに、タイチもちょっとした言葉のキャッチボールを楽しんでいた。アキコは、今度は大丈夫と気合を込めてメモに書き込んだ。メモには度からラジアンへの変換と対応する逆ポーランド式が書かれていた。

$$45° \text{のラジアンは、} \frac{45 * 3.14}{180}$$

180

```
45 3.14 * 180 /
30 3.14 * 180 /
```

アキコ「ふーん。すると、もしかして…」

薄暗い機内でアキコは時折、空間を見据えながら考えついた数式をメモしていく。ダウンライトの光で目鼻立ちがくっきりして見えたこともあるが、その真剣な横顔はハッとする美しさがあった。

計算式を書き終えるとアキコはなぜか小悪魔っぽい笑顔でメモを渡してきた。ボーっと見惚れていたタイチは目のやりどころに困って、メモだけを注視することにした。

```
45 3.14 * 180 / s 30 3.14 * 180 / c *
```

アキコ「正解かな？」

照れ隠しに、しばらく式を検証していたタイチは、その正しさを確認した。

タイチ「…さすがだね。そのままキータイプしてみたら」

タイチは自分のノートパソコンをそっとアキコに渡した。タイトスカート姿のアキコは慣れた動作で、今まで組んでいた足を崩し、ラップトップ風に膝の上にパソコンを置いた。

そして、コマンドプロンプトにあった">rpn"の後に、メモした逆ポーランド式を打ち込んでいった。最後にENTERを押すと、かすかにハードディスクの動作音が聞こえた。

```
>rpn 45 3.14 * 180 / s 30 3.14 * 180 / c *
0.612222
```

アキコはタイチのrpnが出した答えと、既に計算してあった値と照らし合わせて、その正しさを確認している。

アキコ「すごく面白いよ、これ。逆ポーランドって魅力的だね。ふーん。こんな感じなのかぁ。」

アキコは久しぶりに何かわからない嬉しさがこみ上げてくるのを感じた。珍しく関心しきりなアキコを見て、気を良くしたタイチは別の関数を問い掛けてみた。

タイチ「じゃあ、Logは？」

アキコ「ログ？あぁ対数ね。『l』じゃないの？あっ…」
タイチ「そう、Logって常用対数と自然対数があるから、常用対数は『j』で、
　　自然対数は『l』にしたんだ」
アキコ「なるほどね。すると自然対数で、Log 3は…」

長い爪があるせいかあまり指を曲げずにすらすらっとキーを軽く触るようにタイプしていく。きれいなタッチメソッドだ。タイプミスのない連続したカシャカシャという軽快な音が心地よかった。

```
>rpn 3 l
```

アキコ「これで、いい？」

淀みのない綺麗なキータッチを眺めていたタイチは、アキコの問い掛けに応えようとしたが、彼女は答えを待つつもりはなかったらしい。すでにENTERキーが押されていた。

```
>rpn 3 l
1.09861
```

アキコ「じゃあさ、３乗とか４乗とかって、どうするの？こんなふうに」

早く先を聞きたいのか、さらさらとメモに走り書きするアキコ。

```
  3
10
```

タイチがちょっと貸してとばかりにアキコの膝の上でノートパソコンを都合の良い角度にずらした。タイチのキータッチはアキコに比べるとスピードは同じくらいだが、ちょっと雑で強い感じだ。

タイチ「こんな感じになるね」

```
>rpn 10 3 p
1000
```

アキコ「pってpowerのp？」
タイチ「そう」
アキコ「ふーん。なるほどね。そうなんだ。10を指定するってことは2の3乗
　　とかはこうね」

膝の上で自分の心地よい位置にノートパソコンを戻して、アキコは自信満々でタイプした。画面には予想通りの値が表示されていた。

```
>rpn 2 3 p
8
```

タイチ「いつも飲み込みが早いね」
アキコ「するとさ、これは？」

タイチが発する誉め言葉にまったく関心がないのか聞いていないのか、アキコが書き記したのは次の式だった。

```
 3
e
```

タイチ「…あぁ、ネピア数ね。じゃあ、アキが推測してみてよ」

急にタイチに問題を振られても表情一つ変えずに、ほんのちょっとだけ真顔で考えた後、アキコがキータイプした逆ポーランド式は次だった。

```
>rpn 3 e
20.0855
```

タイチ「正解！」
アキコ「当然よ」

タイチは、先ほどのアキコの横顔を思い出しながら、女性として再評価しようとしていたのを後悔した。この態度、やっぱり、カワイ気がない…。

---------- (つづく) ----------

Copyright(C) 2005 rpn hacks! All rights reserved